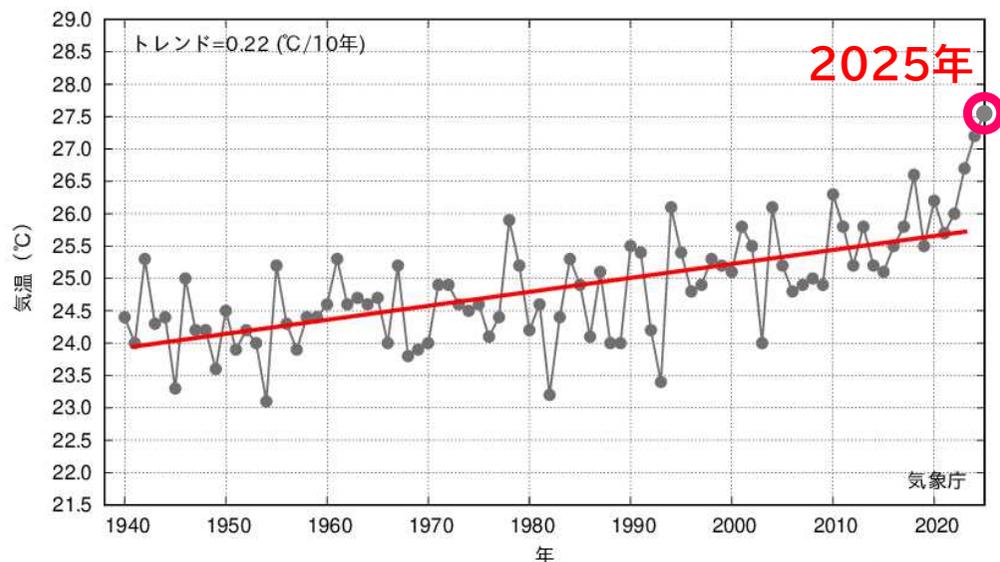


# 静岡県気候変動への対応

# 近年の気候変動の状況(気温)

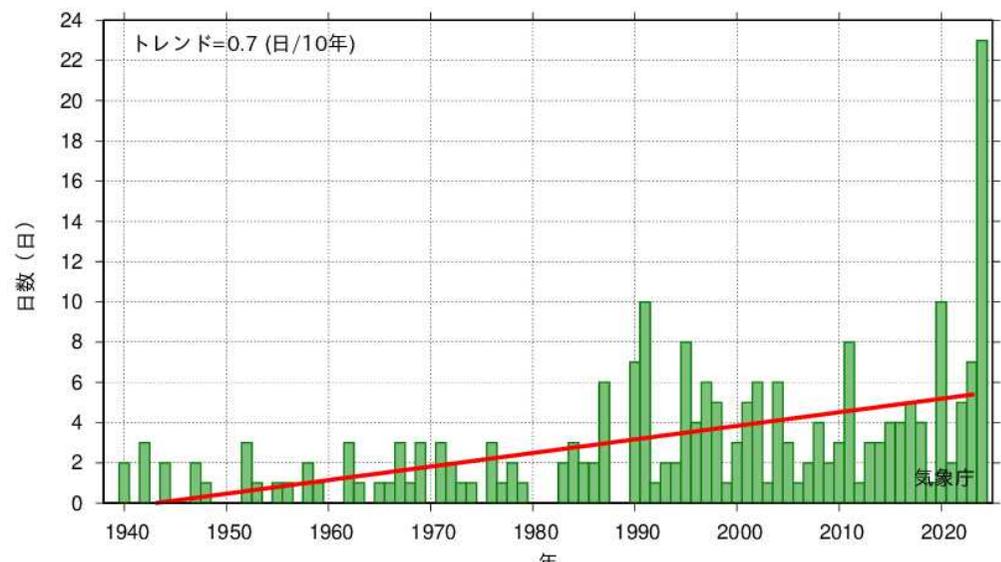
**\*静岡の気温は年々上昇傾向、ここ3年は特に顕著**

静岡市の夏平均気温(6~8月)



出典:気象庁

静岡市の日平均気温35°C以上(猛暑日)の年間日数



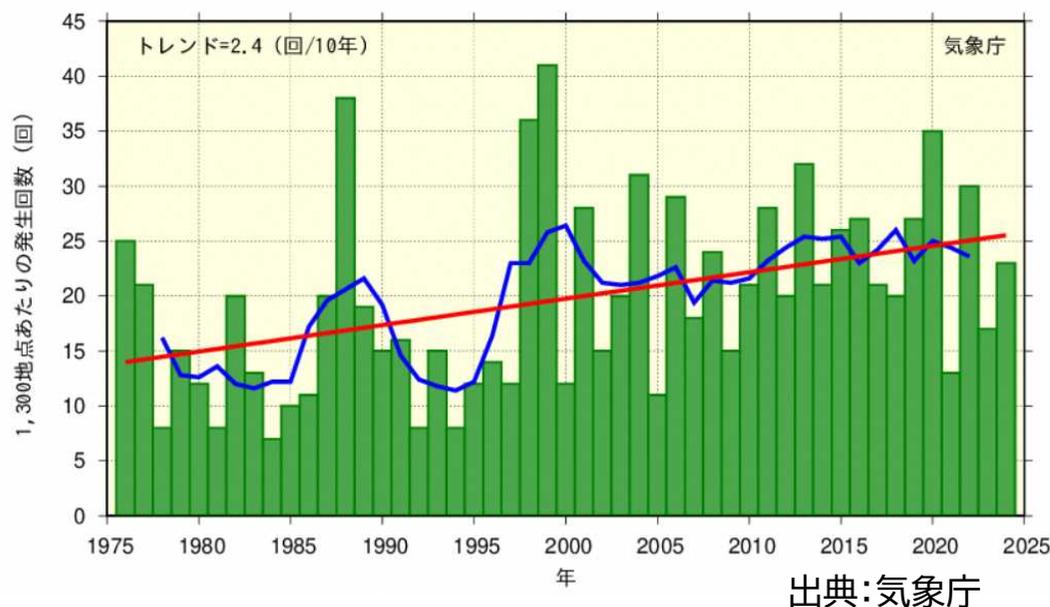
出典:気象庁

- 静岡市の2025年の**夏平均気温**は、2023年および2024年を上回り統計開始以降、**最高値を記録**(全国と同様)
- **年平均気温は統計史上3番目**(1位:2024年、2位:2023年)
- 静岡市の2025年の猛暑日は23回と歴代最多となった。  
**8月6日には41.4°Cという国内最高気温に迫る気温を記録**

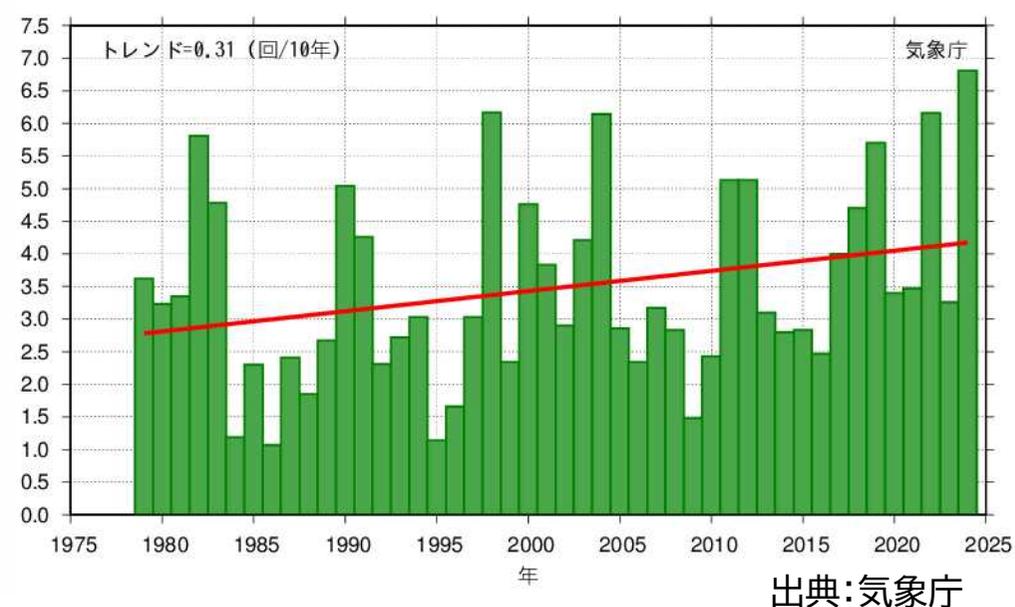
# 近年の気候変動の状況(降雨)

## \*静岡でも短時間で非常に強い大雨の回数が増加

1時間降水量80mm以上の年間発生回数(全国)



1時間降水量30mm以上の年間発生回数(静岡市)



- 日本全国では大雨の年間発生頻度が増加  
(より強度の強い雨ほど増加率大)
  - 静岡市でも時間30mm以上の降雨発生回数は統計上でも増加
  - 一方、年間総降水量は変化の傾向は確認できない
- ⇒ 大雨被害の発生確率高まる  
いつどこで災害級の大雨が降ってもおかしくない状況

# 高温による農作物被害の実態

品目	影響
水稲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白未熟粒の発生</li> </ul>
野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(イチゴ)花芽分化の遅延 →年内出荷量の減少</li> <li>・(トマト)着色不良果実、裂果の発生</li> <li>・(ワサビ)水温上昇による病害の発生</li> <li>・(一般)発芽不良、苗活着不良、</li> </ul>
果樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(カンキツ)日焼け果、浮き皮の発生</li> <li>・(ブドウ)着色不良</li> </ul>
花き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(キク)開花遅延</li> <li>・(キク、バラ)奇形花、小輪化</li> </ul>
畜産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採食量の減少 →(酪農)泌乳量低下、(養豚・養鶏)生育低下・出荷遅延</li> </ul>



裂果(トマト)



病害の発生(わさび苗)



奇形花(キク)



高温による苗の枯れ



日焼け果(みかん)



浮き皮の発生(みかん)

# 本年度の気象災害(台風15号の竜巻等被害)

## 台風15号(令和7年9月5日)

静岡県では線状降水帯による大雨とともに、中部地域では竜巻による突風が発生。  
竜巻は日本最大級(風速81m/s以上)の大きさと推測されている。

区分	主な被害状況	被災市町数	箇所数
農業用施設	ハウスおよび倉庫の損壊・浸水 茶防霜ファンの倒壊	11市町	368 (381棟)
	JA共同利用施設の損壊・浸水	5市町	11
農産物	施設損壊に伴う被害、浸水被害	11市町	335



パイプハウスの損壊(イチゴ)



ガラス温室の損壊(花)



施設、設備の損壊、冠水(花苗)



茶防霜ファンの倒壊

# 静岡県気候変動への取組(R7概要)

## 1 マイナス面⇒既存作物への悪影響に迅速対応

### 【気候変動専門対策チーム立上げ】

- 令和7年5月に研究・開発・普及指導が一体となったチームを起動
- ⇒本県作物の高温耐性品種や高温軽減技術の**開発・普及を加速化**  
成果はどんどん現場へ、ワンストップで技術情報を発信

## 2 プラス面⇒新作物の導入

### 【しずおかアボカド産地化プロジェクト】

- 県の新たな取組を「**チャレンジ事業**」として事業化(R7-9)
- 栽培と流通の両面から産地化へアプローチ
- ⇒気候変動に適応し、かつ国内需要が見込まれる新たな品目として「**アボカド**」に着目

## 3 【緊急対応】災害への支援

- 令和7年9月に発生した台風15号による竜巻被害への対応
- ⇒**国の協力**を得ながら、被災農業者の早期復旧を後押し

# 気候変動専門対策チーム(研究開発分野)

研究課題:気象変動リスクを軽減する対策技術の開発

\*県独自のプロジェクト研究(政策課題指定枠)として緊急課題化(R7-8)

県特産品に**高温被害**が発生



高温で花芽分化が遅れる



一等米比率の低下



需要期に出荷できない

ワサビ苗が暑さで枯死

## 【イチゴ新品種の開発】

夏季高温耐性有するイチゴ



## 【水稻の品質向上】

出穂期の施肥時期・施肥量



## 【施設花きの高温対策】

遮熱剤塗布と既存技術の組合せ



## 【ワサビ苗の枯死対策】

選択的遮光が可能な  
遮熱資材の現地実証



# イチゴ極早生系統の新品種開発



- 今年度の研究内容
- ・ 現地適応性試験による特性把握及び課題抽出
  - ・ 極早生系統に適した栽培条件の検討

**イチゴ新系統** : 令和7年度の猛暑下でも、**花芽分化が早いことを確認**

所内試験における頂花房の開花日及び初収日

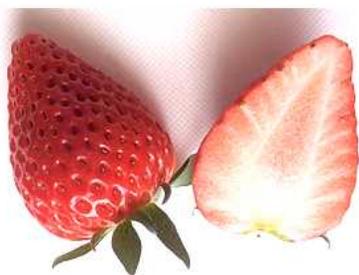
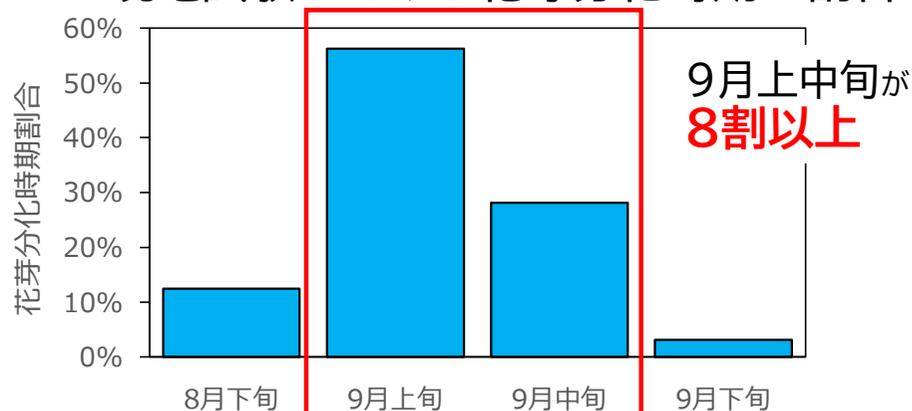
11月下旬の様子(所内ほ場)

供試品種	定植日 (月/日)	頂花房	
		開花日 (月/日)	初収日 (月/日)
<b>新系統</b>	<b>9/14</b>	<b>10/18</b>	<b>11/15</b>
きらび香	10/1	11/11	12/18
紅ほっぺ	10/8	11/21	12/31



**現地適応性試験:** 現地でも、安定して花芽分化が早くなることを確認  
「早くから収穫できるのは**魅力的、期待大きい**」との評価

現地試験における花芽分化時期の割合

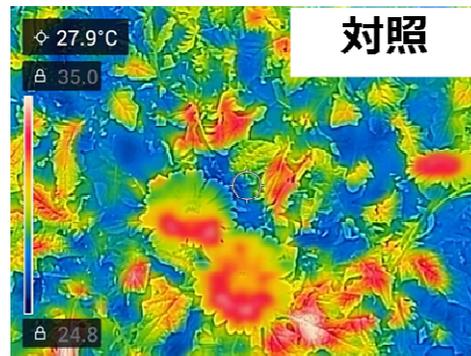
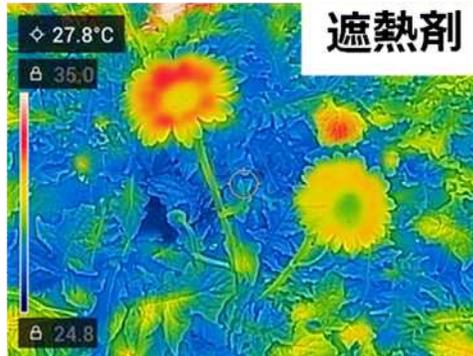


# 遮熱剤塗布による施設花きの高温対策技術の確立

今年度の  
研究内容

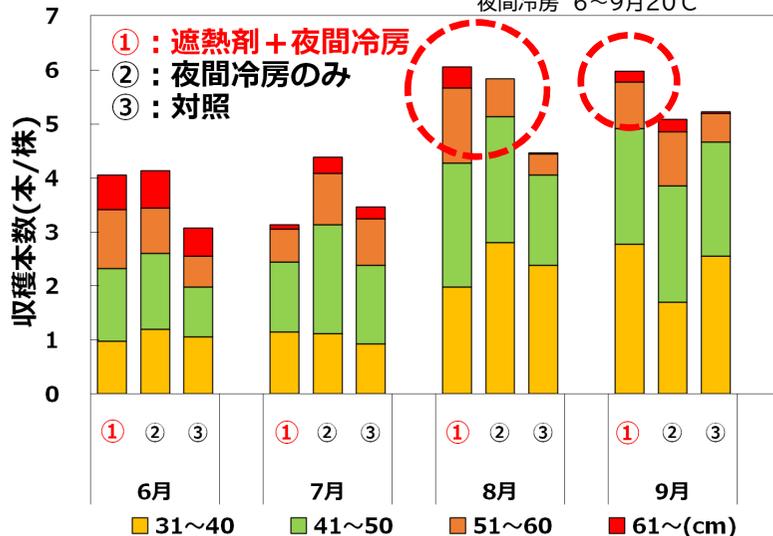
- 遮熱剤資材とヒートポンプを組み合わせた高温対策技術の検証

遮熱剤+ヒートポンプによる夜間冷房の効果…バラの夏秋季の収穫本数は増加



- 遮熱剤塗布により、  
日中の温室内温度は約1°C低下
- 植物体表面温度が、約3°C低下
- 遮熱剤とヒートポンプによる夜間冷房の  
組合せで、夜間温度が夜間冷房のみよりも  
約2°C低下

<バラ「サムライ08」> 遮熱剤4~9月  
夜間冷房 6~9月20°C



- 収穫本数が約20%増加
- 切花重が約10%増加するなど、切花品質が向上

## 今後の社会実装加速化への取組

- 生産者向け勉強会の開催、成果の現地普及
- 低コストでの導入が可能な  
其他要素技術(外気導入)  
を組み合わせた対策技術の  
検証
- トマトへの横展開



生産者や関係機関と意見交換

# 気候変動専門対策チームの取組(普及指導分野)

## 1 普及指導員の調査研究

\* 調査研究のテーマに「高温対策」を取り上げるよう指導

⇒ 106名中24名が高温対策に関する調査研究に取り組む

### 調査研究テーマ(一例)

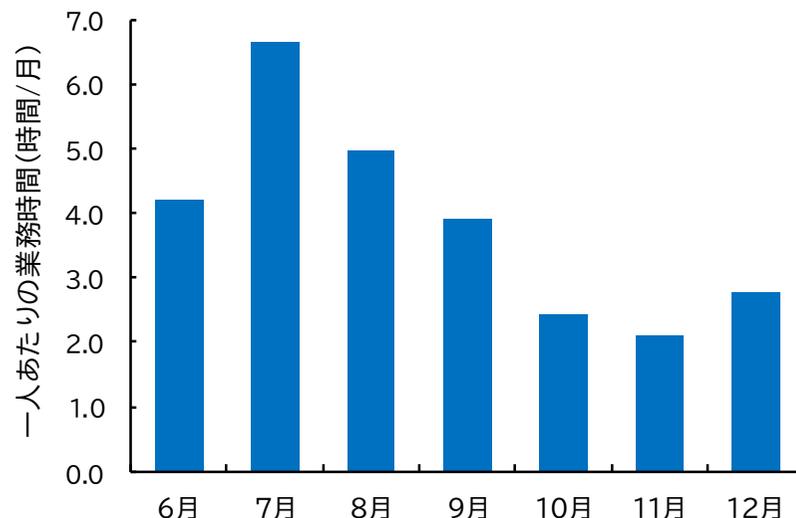
- ・ウンシュウミカンにおける日焼け防止対策の検討
- ・乳牛舎における暑熱対策機器等の効果検証

調査研究とは:現場が抱える問題点に対し、課題を設定し、調査や試験で得られたデータを分析・考察して課題解決を図る普及指導員が取り組む業務

## 2 高温対策業務の明確化

\* R7.6から普及指導の活動業務に「高温対策」を追加

⇒業務活動時間を明確化することで「高温対策業務の意識づけ」を行った



高温対策にかかる業務時間調査の推移

# 研究開発分野と連動した取組(1)

## \*イチゴ県育成系統の現地適応性

- 県内で現地適応性試験を実施
- 各農林事務所の普及指導員が調査を担当  
(花芽分化、開花日、初収日など生育特性、収量を調査)
- 温度、給液などデータを収集し、新系統の栽培マニュアルを作成していく

## \*既存品種における対策

- 既存品種(きらび香)の高温対策(夜間冷房育苗)の指導



現地試験の状況(ほ場巡回)



夜冷育苗の生育確認

# 研究開発分野と連動した取組(2)

## \*遮熱剤塗布による施設園芸品目への影響調査

- 施設園芸(ミニトマト、カーネーション等)で現地実証実施
- 各農林事務所の普及指導員が調査を担当  
(温室内環境、生育特性、切り花品質・収量を調査)
- 効果の持続期間、実証者への聞き取り等を通じて、  
部会員に成果の共有、技術の導入を進めている。



現地試験の状況



ドローンによる散布



# しずおかアボカド産地化プロジェクト(令和7~9年)

## 栽培技術の確立

### 【課題】安定生産技術が確立されていない

- ・冬の寒さによる苗木枯れ
- ・開花は非常に多いが着果量が不安定
- ・収穫適期が不明



### 【取組内容】

- ・静岡県内の栽培データ収集  
(県内園地で着果量、作業時間等を調査中)
- ・幼木の生存率向上技術(寒さ対策)の開発
- ・収穫量の安定技術の開発  
(せん定方法、土壌条件の検討)



生産者、大学、民間事業者等と協力し、  
**栽培マニュアルを作成**



5月に実施したキックオフセミナー



樹上のアボカド

# しずおかアボカド産地化プロジェクト(令和7~9年)

## 流通チャネルの確立

### 【現状と課題】収益力のある販売が不明確

- ・国産アボカドとして付加価値のある高単価での販売
- ・国産は流通量が少なく、個人単位での売買が主流
- ・産地化できる安定した単価・流通経路の確保



### 【取組内容】

- ・販売ターゲットを明確化  
(消費者へのWEBアンケート、流通事業者への予備調査を実施中)
- ・流通事業者、消費者へのPR
- ・静岡産アボカドの価値向上



販売戦略の構築

# 台風15号被害への対応

## \*被災農業者への対応

事業名	件数と補助額
農地利用効率化等支援交付金 (うち被災農業者支援向け優先採択)	被災した農業用施設の再建・修繕や農業用機械の再取得・修繕
県制度融資による金融支援	被災した農林水産業者を対象に県制度融資を発動し、緊急的な金融支援を実施
産地緊急支援事業(国直接採択事業)	早期営農再開に向けた生産資材の調達や作物残渣の撤去

## \*農業共済加入促進に向けた取組

実施項目	内容
①報道機関への記事掲載依頼	○ 日本農業新聞(静岡版)に掲載
②普及指導員による加入促進	○ 普及指導員による周知活動 重点支援経営体への個別訪問による制度周知 JA生産部会の研修会等における部会員への制度周知 ○ 普及指導員の資質向上 若手普及員に対する研修会の実施(講師:NOSAI静岡)
③県独自の補助事業の共済加入要件化	○ 施設整備事業の採択要件に、園芸施設共済の加入を要件

# 気候変動対策の課題(国への要望)

## 【研究開発分野】

- 研究開発のスピードアップ(**共同研究**、コーディネーター機能)
- 現地実証等を活用した技術の速やかな普及
- 研究の基盤となる**情報プラットフォームの整備**
- **研究開発予算の拡充**と技術開発の推進

## 【普及指導分野】

- **協同農業普及事業の負担増**  
(物価高騰による**現地実証費用負担**、**普及指導員の熱中症対策支援**)
- **年度またぎや年度当初から利用できる補助金等の充実**  
(3月、4月に行う必要があるものも多い、採択を待っていては進まない…)
- **気象変動に対応した新たな作物の導入支援**  
(**苗購入**、**未収益期間補償**、**高温対応品種の選定支援**)
- 開発技術の現地実証および普及段階における技術指導やサポート
- 高温下での省力化に貢献できるスマート農業技術の速やかな導入
- 農家に助言を行える**生成AI等の導入**、**高温対策資材情報等の共有**  
(普及指導員が減少する中、多くの農家へ助言できる体制へのサポート)